

令和5年度 第1回教頭研修会

令和5年5月23日

学校の要として働いている教頭先生は、日ごろ各校において、不祥事防止の研修や授業改善の指導助言、生徒指導のアドバイスなどの幅広い仕事を行っています。

それら1つ1つの研修や助言が職員の心に届いていくことで学校力の底上げにつながると思っています。そこで、教頭先生の研修力向上を図り、教頭研修会を年間3回行うこととしました。

教頭研修会予定

第1回 研修構成スキル

第2回 ナッジ理論スキル

第3回 巻き込みカスキル

研修会は「教頭研修会」としてはいますが、第2回と第3回に関しては、各校の主幹教諭や指導教諭、ミドルリーダーも参加して研修を行う予定にしています。

<第1回研修会でのキーワード>

- ①研修と授業のちがい
- ②研修講師としての印象
- ③受講者のニーズと本質的課題

講師 SWITCHWORKS
西崎 真由美 氏

令和3年度と令和4年度にも教育委員会主催の校長研修会やヤングリーダー研修会にご登壇いただきました。



①研修と授業のちがい

毎日学校で行っている「授業」と「研修」とはどう違うのでしょうか？受講者の年齢？学びの主体性？など、様々な考えが出されました。結論は「研修とは、**気づきを与えて個人の行動変化・現場の変化を導くこと**」だということです。

ということは、研修を行う主体である講師は研修会に**しかけをつくり**、受講者に**気づきを与え**、**研修後に受講者の行動に変化をもたらす**ことが要求されます。そのための考え方やスキルについてこれからの連続講座で学んでいくことを確認しました。

②研修講師としての印象

研修を行う際には、受講者の「**視覚**」「**聴覚**」に対して好印象を与える服装や表情、姿勢、声の大きさやスピード、トーンに気を配ることが**研修効果を高める**ことも学び、自己紹介を兼ねてグループでペアワークを行いました。

③受講者のニーズと本質的課題

受講者の納得感を得る研修にするために、受講者のニーズに寄り添いながら本質的課題に気づかせていくことが重要だということです。



3回連続講座の第1回は、「研修の心構え」を中心に研修が進みました。第1回の研修では、これまでの学校での経験をもとに、自身の話し方を振り返ったり、職員室での研修をイメージしたりしながら受講されていました。次回からは「**気づきを与えて個人の行動変化・現場の変化を導くためのスキル**」や「**受講者に納得感を得るためのスキル**」について、その具体を研修していきます。

3回の研修会を通して、各校で今よりさらに気づきと納得感のある研修が展開されることを期待しています。